

香川県教育センター
教育ライブラリーだより

第43号　令和8年10月20日

朝夕涼しくなり、ようやく秋らしくなってきました。
食欲の秋という方もいらっしゃるかもしれませんが、読書の秋もお忘れなく。
多忙な中、一人静かに書物をひもとく時間も大切にしたいものです。
教育ライブラリーには、たくさんの教育図書、研究紀要・論文、教育雑誌、視聴覚資料などがあります。
研究や研修にぜひお役立てください。教育ライブラリーでは、閲覧はもちろん貸出もできます。
基本的に土曜日も利用できます。開館予定日は当ホームページでご確認ください。

書籍紹介

①「世界基準の英語力　全国トップクラスのさいたま市の教育は何が違うのか」

細田眞由美/著
（時事通信社　2024 年発行）

文科省が全国の公立小・中・高校を対象に実施した「英語教育実施状況調査」で、さいたま市は 4 年連続全国一だそうです。例えば、英検 3 級以上の英語力のある中学 3 年生が 2022 年度で 86.6%、全国平均が 49.2%で、政府の目標が 50%以上なので、かなり先を行っているのがわかります。でも、なぜそんなに英語に力をいれるのか、ほかにも教育課題はたくさんあるのではという声も聞こえそうですが、英語にだけ注力しているのではないのです。さいたま市が目指すものは、不確実な未来を生きる子どもたちが「生涯にわたって質の高い学びを重ね、自分の頭で考え抜いて、『新しい価値』を見つけられる、知的にタフな人間」になること。まさに今の指導要領が目指しているものです。加えて「英語を『言葉』として生きて働かせ、人をつなぎ、地上に山積している様々な課題解決に向かっていける力」を身に付けること。知的にタフで多様性を理解し世界とつながることができる人間を目指しているのが分かります。そのための教育課程として「グローバル・スタディ」を導入したり、必要な人材を全小中学校に配置したり。また、スピーチコンテストやディベート大会を実施したり、子どもたちに国際交流の機会を設け小中高 English Camp を実施したり、小学校教師の英語研修を導入したりと、「さいたまメソッド」として次々に実現していきます。子どもたちは協働的な学びを英語で行っているといったイメージでしょうか。「僕たちは英語を学んでいるのではなくて、英語で学んでいるのです」という子どもの声がそれを裏付けます。教育課題は地域によって異なりますが、本気で取り組めばこれだけのことができるという証左とも言えます。

②「使ってはいけない日本語」

日本語倶楽部/著
（河出書房新社　2006 年発行）

学校現場でご勤務の皆さんは、職場で次のような電話応対を耳にしたことはありませんか。
「校長先生は、今は会議に出られています。」
「〇〇先生はお休みされています。」
外部の方への対応として、このような表現に少し違和感を覚える方もおられるのではないでしょうか。

本書は、私たちが日頃何気なく使っている日本語について、「どこが適切で、どこに気を付ければよいのか」具体例を交えながら分かりやすく教えてくれます。敬語や謙譲語の正しい使い方はもちろん、言葉の意味や文法についても改めて考えるきっかけになる一冊です。

学校は、子どもたちに言葉を伝える場であると同時に、教職員自身の言葉遣いが周囲から見られる場でもあります。日本語をより正しく、より丁寧に使いたいと考えている方にぜひ手に取っていただきたい本です。

あわせて、次の３冊もお薦めします。

○完璧に使いこなしたい日本語　　日本語倶楽部/著　（河出書房新社　2003 年発行）
○誰からも好かれる日本語　　日本語倶楽部/著　（河出書房新社　2006 年発行）
○日本語反省帳　　岩淵　匡/著　（河出書房新社　2004 年発行）

雑誌紹介

雑誌名　　号	特集等（抜粋）
国語教育 (明治図書)　10 月号	【特集】結局、教師はどこまで出ればいいのか ◇プロフェッショナルに聞く「教師の出どころ」の見極めかた ◇子どもの言葉をどう拾う？　誘導にならない板書のポイント ◇子どもの思考を止めない「問い返し」注意点と活用法 ◇出る？出ない？悩みがちな授業場面とその対応 ◇子どもの「間違い」の受け止め方・生かし方 ◇授業の流れで見る　教師の出どころ・引きどころ 【連載】わが県の国語ソムリエ　香川県　香川大学准教授　浅井哲司
社会科教育 (明治図書)　10 月号	【特集】１００万人が受けたい！歴史授業が楽しくなる仕掛けアイデア ◇教材づくり　逆転現象から起こる仕掛け術 ◇歴史授業が楽しくなる仕掛け術　教材研究と活動の切り口 ◇批判的思考力を育む！歴史的な見方・考え方を育てる授業デザイン ◇悪者じゃなかったの？歴史的評価の大逆転から考える授業づくり ◇子どもを歴史好きにする！面白ネタでつくる学習ワーク ◇地歴連携で活かす！歴史授業で取り上げたい「地域素材」活用の手立て
新しい算数研究 (東洋館出版社)　10 月号	【特集１】[変化と関係]における高次の資質・能力を育成する数学的活動 論説・指導案・事前検討会・授業の実際・事後研究会 【特集２】対話で学びを深める算数の授業づくり ◇小さな問いから始まる対話で考えを深める授業づくり ◇対話の往還を通して概念形成を図る算数の授業づくり ◇「わかった結果」ではなく「わかっていく過程」を共有する ◇考えの深まりを自覚する対話は、子どもの「対話をしたい」から
数学教育 (明治図書)　10 月号	【特集】単元デザインから生成 AI 活用まで　全解説「探究的な学び」 ◇探究的な学びの目標を「生徒の姿」でどのように具体化するのか？ ◇単元の「導入」における教材をどう選ぶのか？ ◇「生徒の予想」を、いかにして問いに高めるのか？ ◇「身の回りや社会の事象」に数学の視点をどう働かせればよいのか？

		◇結果をどのように「吟味」するのか？ ◇「解き方の違い」や「理解度の違い」をどう授業で生かすのか？ ◇「協力して取り組む」必然性のある課題をどう設定するのか？
理科の教育 (東洋館出版社)	10 月号	【特集】語り合おう 理科における「探究」とは何か ◇理科における「探究」を改めて考える ・学習指導要領における理科の「探究」を考える ・我が国の探究の 100 年史と、段階性・系統性の再検証による未来構築 ◇中学校・高等学校の理科における「探究」で大切にしていること ・小学校の「問題解決」から中学校の「探究」へ ・日常の自然現象を「面白さ」に変える地学の探究　他 ◇他校種と比べた小学校理科における「探究」 ・特別支援教育の実践から考える小学校理科との接続 ・小学校における単元のストーリーを意識した授業実践から　他
英語教育 (大修館書店)	10 月号	【特集１】困りに気づく・伸びを見取る 観察の技術とは ◇個別最適なフィードバックのすすめ　見取りから始まる指導技術 ◇1 人の困りが、クラスの「深い学び」を創り出すまで ◇「書けない」を「書きたい」「書けた」へ 生徒の沈黙に寄り添う「見取り」の視点 ◇日常の学習場面に潜む児童・生徒の困り 【特集２】誌上シンポジウム 語彙指導と研究についてみんなでトコトン考える 「語彙フェスタ２０２６」アフターレポート ◇「語彙フェスタ２０２６」という社会実験 ◇効果的な語彙指導とは　◇教材と生徒の学びを考えよう ◇語彙を「測る」「選ぶ」「学ぶ」ための Web アプリ
道徳教育 (明治図書)	10 月号	【特集】道徳授業のセオリーを打ち破れ！ ◇教材は教師が範読せよ　◇結論のない教材は使うな ◇「もしも自分なら」とは問うな　◇「なぜ」とは問うな ◇２人の人物の気持ちを追うな　◇方法的な解決を話し合うな ◇教師が自分の価値観を語るな　◇自己を振り返る時間を設けよ ◇子どもに決意表明をさせるな　◇１時間１教材１価値で行え
授業力＆学級経営力 (明治図書)	10 月号	【特集】３６０度解説「探究的な学び」のデザイン ◇「おもしろい教材」は、どのようにして生まれるのか？ ◇「目標設定」はなぜ必要なのか？ ◇探究したくなる「共通の課題」とは？ ◇「調べ学習」と「情報収集」は何が違うのか？ ◇「整理・分析」では何を意識すればよいのか？ ◇「安心して挑戦できる雰囲気」をどうつくるのか？ ◇そもそも「対話」とは何か？ ◇「学習障害」のある生徒の探究活動をどう保障するのか？
生徒指導 (学事出版)	10 月号	【特集】学校をあきらめない ◇居場所を求める子どもたち　その背後にある思いとは ◇学校との「つながり感」を育むための「学校 DE＆I」 ◇「周辺化される目立たない子どもたち」を支える「学校のケア風土」

		◇「ここにいていい」が伝わる学校をつくる ◇学校と保護者がつながるために ◇［特別対談］行きたくない気持ちの先を子どもとともに考える 【インタビュー】「闇バイト」の脅威から自らを守る情報リテラシー
教職研修 (教育開発研究所)	10 月号	【特集１】萎縮せず、民主主義をつくる教育を 政治的中立性を守る。そして挑む。 ◇「政治的中立性」の論点整理 ◇政治家の胸中　教育行政・学校教育へのかかわり方 ◇学校で「政治的中立性」をどう維持するか ◇臆せず主権者教育に取り組むために 【特集２】だまされない子どもを育てる 「だって AI／SNS に書いてたから」と言わせない情報活用能力 ◇情報活用能力をさらに高めるメディア・リテラシー ◇AI を学び、AI で学ぶ 「思考の丸投げ」を防ぐ活用と環境づくり ◇情報活用能力の育成に向けて、今年度からすぐにできること
初等教育資料 (東洋館出版社)	10 月号	【特集】各教科等ワーキンググループの審議の概要②［算数、生活、総合的な学習の時間］ 【連載】◇人と人が豊かにつながり、一人一人が輝く学校づくり ◇見える化シートで育成する自律的な学び クラウド環境下における端末の活用とメタ認知を促す教師の役割 ◇改訂に向けた検討事項と、今、大切にしたい取組 ～自立活動の指導～
中等教育資料 (学事出版)	10 月号	【特集】学習指導要領改訂に向けて　各教科等別ワーキンググループにおける審議状況⑦［数学、総合的な学習・探究の時間］ 【連載】◇各教科等の改善／充実の視点 ◇産業教育のページ　家庭科教育の充実に向けて
実践みんなの特別支援教育 (Gakken)	10 月号	【特集】理学療法士・作業療法士の視点を生かした みんなが参加しやすい体育の授業づくり ◇日常生活動作や体育の場面でのユニバーサルデザインな学校支援 ◇跳び箱運動の RE：デザイン ◇「打つ」と「走る」を分けるティーボール ◇「怖さの中に安心感がある」体育授業 【連載】◇楽しく学べる教材いろいろ　くり上がり・くり下がりの計算 ◇今月のおすそわけ教材　「書けた！」を支える視写サポート教材 ◇うちの子にジャストフィットな合理的配慮 中学校に入学する前の準備
特別支援教育研究 (東洋館出版社)	10 月号	【特集】通級による指導のいま 「通う」から「つながる」へ ◇通常の学級を基盤とした通級による指導の充実に向けて ◇UD・UDL の実践でつなげる誰にとっても学びやすい学校づくり ◇高等学校における通級による指導 ◇学びの多様化学校における通級による指導の意義と実践 ◇小学校・中学校・高等学校における実践から参考にしたいこと 【連載】◇通級による指導における教材・教具の定番レシピ ◇インクルーシブな学校をめざして① 土台となる学校の体制づくりから ◇実践レポート　楽しく語彙を増やすことを目指した実践

学校図書館 (全国学校図書館推進協議会)　9月号	【特集】生き生きした図書委員会活動のために ◇生徒図書委員会の運営 ◇カウンター、装備などの実務 ◇図書委員の実務を考える ◇特別活動をデザインする「ミニビブリオバトル選書」 ◇図書委員会による広報活動の可能性 ◇図書委員がつくる図書館祭り
高校教育 (学事出版)　10月号	【特集】このままでいいの！？キャリア教育・進路指導 ◇キャリア教育・進路指導のこれまでとこれから ◇進路選択であえて迷うこととその価値 ◇進学校のキャリア教育・進路指導改革の視点 ◇工業高校のキャリア教育・進路指導で何に取り組んでいくべきなのか ◇総合学科高校から発信！進路指導の転換で新たなキャリア教育を提案
学校事務 (学事出版)　10月号	【特集】特別支援教育と学校事務職員 ◇「特別支援教育の視点」は事務職員に何をもたらすか ◇特別支援教育の充実のために求められる学校事務職員の専門性 ◇「数字」の向こうにある子どもの笑顔に寄り添う学校事務 ◇日常業務と危機管理の接続 ◇特別支援教育に関わる予算執行の先に見えたもの ◇令和における特別支援学校の校舎建設と新たな学部措置について
指導と評価 (日本教育評価研究会)　秋号	【特集１】「深い学び」をどう捉えるか ◇これからの授業設計をめぐる不安と提言　国語科 ◇事象を「俯瞰する機会」が生徒の思考にもたらす効果　社会科 ◇新たな意味づけを創り出す学び　算数科 ◇「問い」の変遷から導かれる深い学び　理科 ◇生きて働くコミュニケーション能力を育てる　英語科 ◇「何を作ったか」ではなく「何が変わったか」　総合学習・探究 【特集２】増え続けるいじめの重大事態にどう対応するか ◇いじめの重大事態の増加の背景とその対処 ◇いじめの重大事態調査報告書から学べること ◇子どもの尊厳と教員の専門性を守るために 弁護士の立場から ◇いじめの重大事態調査で大切なこと ◇いじめ重大事態を子どもの成長に取り戻すために SSW の立場から ◇いじめ重大事態調査の限界と課題 【連載】次期学習指導要領が見えてくる研究開発学校の実践 「マイ探究」の先行実践としての新領域「MIRAI」の「個の学び」 香川大学教育学部附属高松中学校